

# 2-3

## 子どもの家庭学習と総合学力との関係

Benesse 教育研究開発センター 小林 洋

### はじめに

今回の調査は、本章第1節で述べているように学校の授業を基盤とした家庭学習充実の大切さを実証することをねらいとしている。ここでは、まず子どもに対する調査から、家庭学習の取り組み状況を概観し、総合学力(教科学力・学びの基礎力・社会的実践力)との関係を探るとともに、どのような家庭学習が子どもを学びへと向かわせ、効果を実感させるものとなるのかを調べる。加えて、今回の調査で新しく導入した概念である「家庭学習力」と総合学力との関係を調べ、家庭学習充実の指導を考えるうえでの参考材料を提供することを目的とする。

### 1 家庭学習・宿題の取り組み状況と総合学力との関係

#### 1 「家庭学習」「宿題」とは何か — 今回の調査における家庭学習モデル

調査の結果を報告するに先立ち、今回の調査においての「家庭学習」や「宿題」の捉え方を述べておきたい。

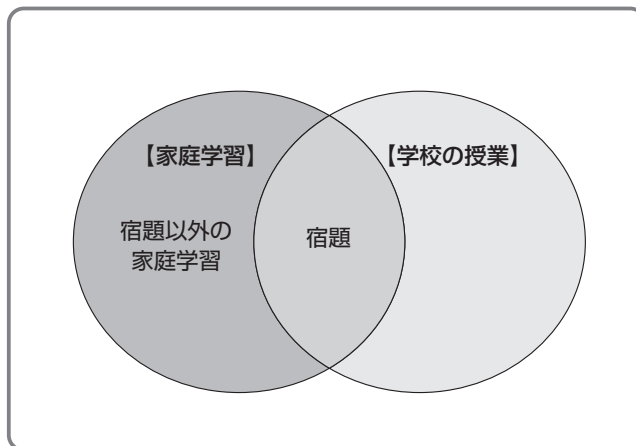
図表2-3-1は、「家庭学習」と「宿題」ならびに「学校の授業」との関係的概念的に示したものである。家庭学習は、一般に「宿題」と「宿題以外の家庭学習」に大別される。宿題は、教師の直接的な指示・管理のもとに行われる家庭学習であり、学校の授業の指導プロセスの一部を構成しており、基本的に授業の一環としての性格を有するものである。宿題に対しては、点検・評価・フォロー指導が加えられ、また、宿題の成果を直接・間接に踏まえた授業展開が行われる。

他方、「宿題以外の家庭学習」には、教師の直接的な指示を伴わない子どもの自主的な家庭学習(自学自習)や通塾による学びなどを含む。この「宿題以外の家庭学習」に対しては、教師による内容や提出期日の直接的な指示・強制の対象とはならない。しかし、自主的な家庭学習として相応しい内容の例示やその進め方、家庭学習の計画づくりの指導、ならびに計画通りの学習が進んでい

るかどうかのチェックや励ましなど、子どもの自主的な学習習慣の発達度合いに応じた教師の指導性の発揮が期待されるもので、必ずしも教師の無関与を前提とした学習ではない。

上記のような家庭学習・宿題や授業の捉え方と異なり、学校の授業は基本的に学校内部で完結させることが望ましく、家庭学習については学校の関与の対象外とすべきという考え方もある。しかし、家庭における子どもの学習や生活の在り方は、教師が意図するかしないかに関わらず学校の授業に直接・間接に影響を及ぼし、学校の教育達成水準を左右することを考えると、学校と家庭とは本来分離させて考えることはできないものではないだろうか。家庭と学校とは、子どもの生活・学習システムとして一体なものである。一方の在り方が他方に影響する。総合学力研究会では、この両者の有機的な連携の充実=授業と結びつけた家庭学習の充実が、日本の子どもたちの学力や望ましい資質を伸ばしていく重要なキーであるという仮説に立ち、この立場からの調査の設計を行っている。

図表 2-3-1 家庭学習・宿題・授業の関係



注) 総合学力研究会の木原俊行教授と重松昭生教諭が提示された案に基づき討議した内容を踏まえて作成した(図表 2-3-2 も同様)。「宿題以外の家庭学習」の中には塾等での学習を含む。また、宿題が、学校の休み時間や放課後等になされる場合も、家庭学習としての宿題とみなす。なお、この図は各学習の相互の包含関係を表したものであるが、量的な関係を示すことを意図したものではない。詳細は本文参照。

なお、以下において用いる「家庭学習」という用語は、主に宿題について言及している場合や宿題の意味合いを強調したい場合は、「宿題」または「家庭学習・宿題」と表記することがある。

以上は、家庭学習・宿題・学校の授業の相互の形式的な包含関係を見たものである。次に、今回の調査での学習の中味や育てたい力の関係の捉え方について簡単にふれておきたい。

総合学力研究会は、「学力向上のための基本調査2003」で「総合学力モデル」を提唱し、子どもの学力を総合的に捉えることの大切さを検証した。

今回の調査においても、授業のみならず、家庭学習で育てる力を総合的に構想し、それに基づく課題の設計が重要という仮説に立っている。教科の学力育成に資するものだけが学びの対象となり家庭学習の課題となるのではない。子どもに育むことが望まれるすべての力・資質・習慣が学びの対象となり子どもにとっての課題である。家庭学習も、知識・技能の習得や活用力、探究的な力を育む教科学力育成のための課題、そして、それらの力の形成基盤となる基本的な生活習慣の確立などを含む学びの基礎力育成のための課題、さらに、問題解決力や社会参画力を育む社会的実践力育成のための諸課題も含めて総合的に設計され、子

どもの自主性・主体性の発達段階を踏まえつつ、家庭と学校の授業との適切な連携や役割分担のもとで、取り組まれていくことが大切と考える。もとより、子どもにとって学習が過度な負担にならないことや、遊んだり、心身を癒したりする時間の考慮も不可欠なことは言うまでもない。

図表 2-3-2 は、このような考え方に基づいて子どもの家庭学習を構想し、その一部を例として示したものである。「宿題」と「宿題以外の家庭学習」のそれぞれの学習類型ごとの課題例について、授業における機能(学校の授業での位置付け)と総合学力モデルに基づく育成したい力・資質との関連づけの例を一覧にしている。「授業における機能」の中で最初に置いているのが「授業基盤」である。授業に臨む際の「規律」や「体力」、概念形成の基礎となる「基礎体験」、読む・聞く・書く等の「基礎的リテラシー」、および「学習習慣」をここに含めている。「宿題」のみならず「宿題以外の家庭学習」として示している学習課題の多くも、学校の授業基盤に関わり、授業の質、ひいては学校の教育達成水準に影響を及ぼすものであることを示すモデルとなっている。家庭の時間は、学校の授業時間の単純な上乘せや延長では決していない。その在り方は、学校の授業の質・効率・成果を左右している。

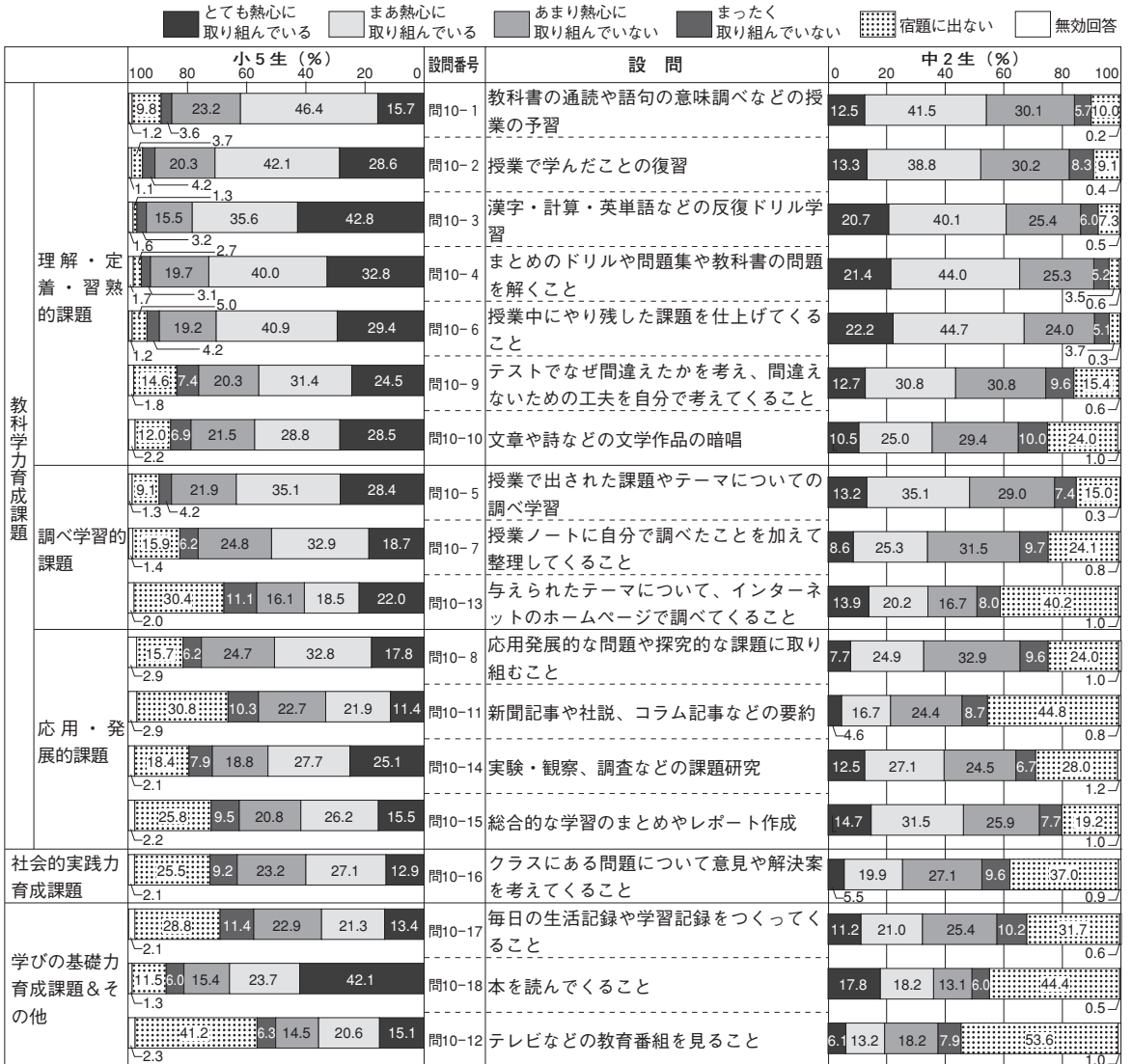
図表 2-3-2 家庭学習(「宿題」と「宿題以外の家庭学習」)の設計モデル(例)

家庭学習のカテゴリー		授業における機能										育成したい学力・資質(総合学力モデル)															
学習類型	課題類型 (例)	授業基盤		先行学習の形成	授業者の制作	集中力向上	興味・関心喚起、動機付け	自己効力感育成	定着・習熟	応用・発展	共有・学び合い	学級の集団力向上	個別診断・指導	授業評価	教科学力			教科横断的能力・スキル・資質					健康・体力				
		規律・体力	基礎体験												基礎的リテラシー	知識・理解	技能・表現	思考・判断	関心・意欲	豊かな基礎体験	学びの基礎力	社会的実践力		豊かな心	自己成長力	読解力	
宿題	授業の進行に沿った出題	授業の予習 (教科書の通読、語彙調べ、例題等)	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○										
		授業の復習 (まとめドリル・問題集等)	○	○					○						○	○											
		授業の応用・発展問題				○				○	○				○	○	○										○
		授業ノートの発展的整理								○	○				○	○	○					○					○
		テストの誤答・弱点問題やり直し									○				○	○	○				○						
		教科書や文学作品の音読や暗唱	○			○				○					○	○	○										
		授業内容に関する調べ学習		○	○	○	○									○	○					○					○
		実験・観察・飼育・栽培とレポート	○	○		○										○	○	○							○	○	○
		芸術作品の鑑賞・感想批評文	○	○		○										○	○	○							○	○	○
		家族等との交流・体験的活動とレポート	○	○								○				○	○	○						○	○	○	○
	総合的学習のまとめやレポート		○				○								○	○	○							○	○	○	
	授業評価や学習の自己&相互評価 など			○								○	○	○										○	○	○	
	長期継続的な定期的課題	学習計画表の作成と運用			○									○													
		漢字・計算・英単語等の反復ドリル 読書&読書ノートの作成 生活記録・日記 など	○	○				○		○					○	○	○					○					○
	長期休業中の課題	学期間授業総まとめ型ドリル	○											○													○
		美術・音楽・文学・技術等の作品創作 自由課題研究とレポートなど						○	○						○	○	○							○	○	○	○
	その他	家事手伝い	○	○																					○	○	
		地域等でのボランティア活動	○	○																					○	○	
学級会や児童生徒会での問題解決		○								○														○	○	○	
運動習慣 など		○					○																			○	
宿題以外の家庭学習	自分でやる学習	授業の進行に沿った習得型学習		○	○				○	○																	
		授業の進行に沿った探究型学習		○	○					○																	
	授業に関係なく行なう学習 (自由研究、創作活動、受験(検)対策、各種コンクールへの挑戦など)		○	○					○	○																	
	家族・友達等との交流・体験的学習活動	自然体験・野外活動		○	○																				○	○	
		博物館や美術館等、社会教育施設の見学		○												○	○	○								○	
		近隣・地域・親戚等との交流 本や新聞を読んでの家族等との会話 友達等との集団遊び など	○	○																						○	
	家族等による「しつけ」	基本的な生活習慣 (正しい食習慣や運動習慣を含む)		○	○			○																		○	
社会の規律・ルール、マナーなど			○																								
その他																											

(注)総合学力モデルに基づく家庭学習の構想の例を示す。学習課題は例示であり、他にも様々な課題がありうる。また、図表中の学習課題と授業における機能や育成したい力との関連づけも例示にすぎない。同じ課題であっても、多様な位置付け方が考えられる。例えば、「予習」も上では示していないが、その成果を学級の中で共有し学び合いの材料として活用するケースが考えられる。最下欄の「その他」には、通塾や習い事が含まれる。なお、今回の調査における家庭学習の項目(図表 2-3-3)は、このような構想を踏まえて設定しているが、調査票の量的な制約もあり、図表中の学習課題の項目例との一致は部分的なものである。

## 2 宿題への子どもの取り組み状況

図表 2-3-3 子どもの宿題の取り組み状況



注) 「あなたは、次のような宿題が出されたとき、どの程度、熱心に取り組んでいますか?」の設問に対する回答状況を示す。中間報告書で紹介した数値と若干の違いがあるのは、今回は無効回答も分母に入れた割合としているため(他も同様)。標本件数は、第2章1節参照。

図表 2-3-3 は、子どもの宿題への取り組み状況(各宿題への取り組みの割合)を表すと同時に、子ども全体の中でどのような宿題がどれくらいの割合で出題されているかを示したものである(出題の頻度や量を示すものではない)。宿題の項目は、先に述べた課題の総合性を重視する視

点から設定しているが、調査項目の量の物理的な制約から、とくに学びの基礎力や社会的実践力の育成に関わる項目については限定的で例示的なものとなっている(図表 2-3-2 に掲げた学習課題例とも同じではない)。

### ●子どもには多様な宿題が出題されている。ただし学校間の違いが大きい。

この図表から、宿題に出る割合(「宿題に出ない」という回答と無効回答を除いた割合)を算出

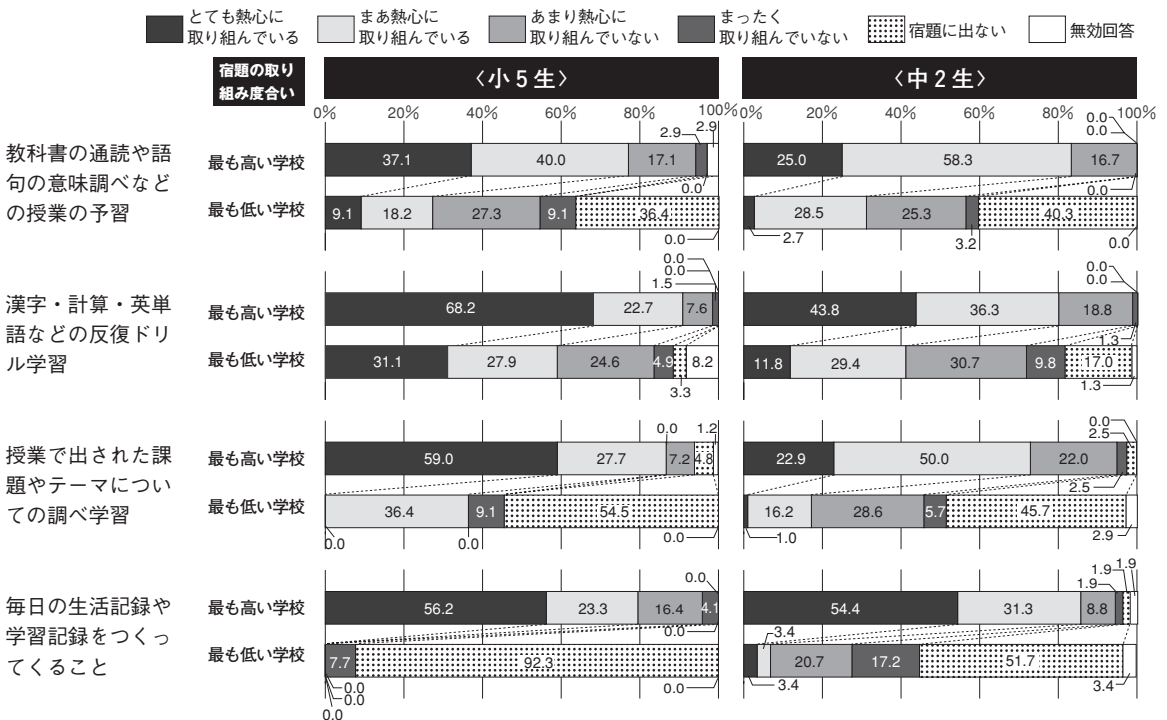
すると、小5生では「漢字・計算・英単語などの反復ドリル学習」(97.1%)、「まとめのドリルや問

題集や教科書の問題を解くこと」(95.6%)がよく出されていることが分かる。また、中2生では「まとめのドリルや問題集や教科書の問題を解くこと」(95.9%)、次いで「授業中にやり残した課題を仕上げてくること」(96.0%)が多い。反対に、小5生・中2生ともに、「テレビなどの教育番組を見ること」(小：56.5%、中：45.4%)や「新聞記事や社説、コラム記事などの要約」(小：66.3%、中：54.4%)は宿題に出る割合が相対的

に低い。全体として、「理解・定着・習熟的課題」に比べて「応用発展的課題」が出題される割合は低い。設定した18項目から1人の子どもに出されている宿題の数を平均すると、小5生は平均14.6種類、中2生は平均13.5種類となる。子どもたちには、多様な宿題が出されている様子がうかがえる。

ただし、図表2-3-4に見るように、宿題の取り組みは、学校間による違いが小さくない。

図表2-3-4 宿題の取り組み度合いの学校間の違い



注) 図表2-3-3で示した宿題の項目のいくつかの例について、子どもが「熱心に取り組んでいる」と回答する割合が最も高い学校と最も低い学校の回答状況を比較したものの、宿題の項目によって、「最も高い学校」と「最も低い学校」はそれぞれ該当する学校が異なる。

### 3 宿題への取り組みと教科学力との関係

図表2-3-5は、各宿題への取り組み度合いと教科学力との関係を見たものである。各宿題について、子どもを「とても熱心に取り組んでいる」「まあ熱心に取り組んでいる」と回答しているグループと「あまり熱心に取り組んでいない」「まったく取り組んでいない」と回答しているグループの2群に分け、それぞれの2教科(国語・算数/数学)の基礎問題と応用問題別の各平均正答

率、ならびにそれぞれの正答率2群の差を示したものである(「宿題に出ない」と回答している子どもは除いている)。この図表から、すべての宿題について、「取り組んでいる」と回答した子どものほうが、「取り組んでいない」と回答している子どもよりも、2教科の平均正答率が基礎・応用ともに高いことがわかる。

1) 小5生では「インターネットの活用」「総合的なまとめやレポート」、中2生では「まとめのドリルや問題集」「授業中のやり残し課題の仕上げ」で宿題の取り組みの度合いによる教科学力の差が大きい

図表 2-3-5 子どもの宿題の取り組みと教科学力との関係

設問内容 (各宿題への取り組み度合い)				小5生				中2生				
				2教科平均 正答率		差		2教科平均 正答率		差		
				基礎	応用	基礎	応用	基礎	応用	基礎	応用	
教科学力育成課題	理解・定着・習熟的課題	授業の予習	問10-1	取り組んでいる	78.5	57.7	6.5	8.6	74.7	57.6	6.6	8.5
			取り組んでいない	72.0	49.1	68.1			49.1			
		授業の復習	問10-2	取り組んでいる	78.3	57.4	6.2	8.3	75.5	58.4	8.4	9.9
			取り組んでいない	72.1	49.0	67.1			48.4			
		反復ドリル	問10-3	取り組んでいる	78.6	57.6	8.4	9.8	76.0	59.0	10.7	13.2
			取り組んでいない	70.2	47.8	65.2			45.8			
		まとめのドリルや問題集	問10-4	取り組んでいる	78.9	58.3	8.5	11.4	76.4	59.9	12.5	16.3
	取り組んでいない		70.4	46.9	63.9	43.6						
	授業中のやり残し課題の仕上げ	問10-6	取り組んでいる	78.6	57.9	8.0	11.5	75.9	59.2	11.7	15.0	
		取り組んでいない	70.6	46.4	64.2			44.2				
	テストで間違えたところの見直し	問10-9	取り組んでいる	79.0	58.0	7.6	10.0	77.4	61.8	11.3	15.5	
		取り組んでいない	71.4	48.0	66.1			46.3				
	文学作品の暗唱	問10-10	取り組んでいる	78.8	57.9	7.3	9.6	75.6	59.2	7.5	9.8	
		取り組んでいない	71.5	48.3	68.1			49.4				
調べ学習的課題	課題やテーマについての調べ学習	問10-5	取り組んでいる	79.3	58.7	8.5	10.6	75.9	58.7	8.9	10.1	
		取り組んでいない	70.8	48.1	67.0			48.6				
	授業ノートの充実・整理	問10-7	取り組んでいる	78.0	57.2	4.7	6.8	73.7	56.3	5.2	6.2	
取り組んでいない	73.3	50.5	68.5	50.1								
インターネットの活用	問10-13	取り組んでいる	80.5	60.8	9.9	14.3	75.0	58.2	9.6	11.6		
	取り組んでいない	70.5	46.5	65.4			46.6					
応用発展的課題	応用発展的・探究的課題	問10-8	取り組んでいる	78.9	59.1	6.4	10.6	77.6	62.2	10.6	14.4	
		取り組んでいない	72.5	48.5	67.1			47.9				
	新聞記事等の要約	問10-11	取り組んでいる	79.2	59.2	7.0	10.9	76.5	60.7	10.4	13.2	
		取り組んでいない	72.3	48.3	66.1			47.5				
	課題研究	問10-14	取り組んでいる	78.5	58.1	6.1	9.6	75.8	59.3	8.6	10.8	
		取り組んでいない	72.4	48.5	67.2			48.5				
総合的な学習のまとめやレポート	問10-15	取り組んでいる	80.2	60.3	8.7	12.6	76.5	60.4	10.1	13.3		
	取り組んでいない	71.5	47.7	66.4			47.1					
実践力	社会的	クラスにある問題についての解決案	問10-16	取り組んでいる	79.3	59.3	7.1	10.3	74.3	57.2	6.6	7.7
			取り組んでいない	72.2	49.0	67.7			49.5			
成課題&その他	学びの基礎力	毎日の生活記録や学習記録	問10-17	取り組んでいる	78.6	57.5	6.3	8.0	75.4	58.1	7.3	8.4
			取り組んでいない	72.4	49.5	68.1			49.7			
	読書	問10-18	取り組んでいる	77.9	56.7	6.6	8.8	71.2	53.9	4.3	6.9	
		取り組んでいない	71.3	47.9	66.9			47.0				
教育番組の視聴	問10-12	取り組んでいる	75.7	54.0	3.8	6.6	70.0	51.9	3.4	3.7		
	取り組んでいない	71.9	47.5	66.6			48.2					

注) 図表 2-3-3 の宿題の各項目について「取り組んでいる」(「(とても+まあ)熱心に取り組んでいる」)子どもと、「取り組んでいない」(「(あまり熱心に+まったく)取り組んでいない」)子どもとの2群に分け、両群の2教科(国語・算数/数学)の平均正答率とその差を基礎・応用別に見たもの。宿題項目の表記は、簡略形を用いている。

図表2-3-5を少し詳しく見ると、基礎・応用ともに2群間の差が大きいのは、小5生では、「インターネットの活用」、次いで「総合的な学習のまとめやレポート(の作成)」「授業中のやり残し課題の仕上げ」であり、中2生では、「まとめ

のドリルや問題集」、次いで「テストで間違えたところの見直し」「授業中のやり残し課題の仕上げ」となっている。

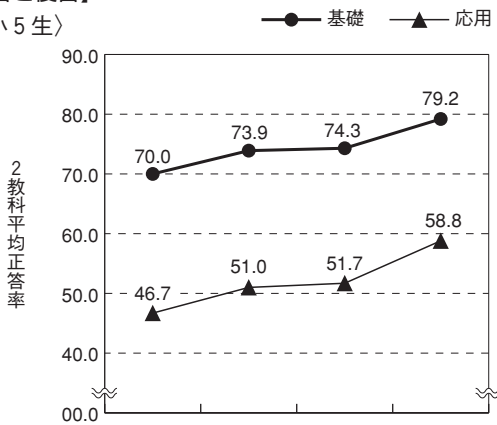
また、小5生・中2生ともに、基礎よりも応用で宿題の取り組みの度合いによる差が大きい。

## 2) 予習・復習のどちらにも取り組んでいる子ども、反復ドリルと応用発展・探究的課題のどちらにも取り組んでいる子どものほうが、どちらか片方のみの子どもよりも教科学力が高い

図表2-3-6 宿題の取り組みパターンと教科学力との関係

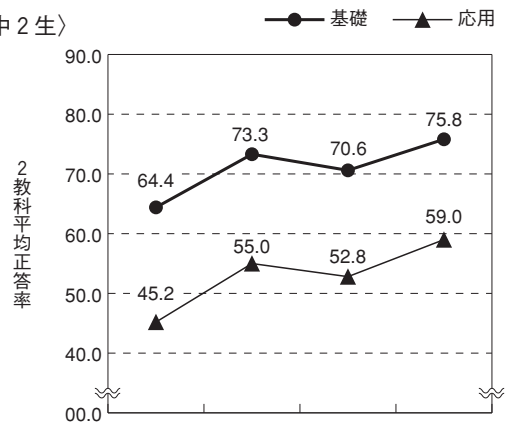
【予習と復習】

〈小5生〉



パターン	D	C	B	A
予習	×	×	○	○
復習	×	○	×	○
割合(%)	12.7	13.1	9.3	51.7

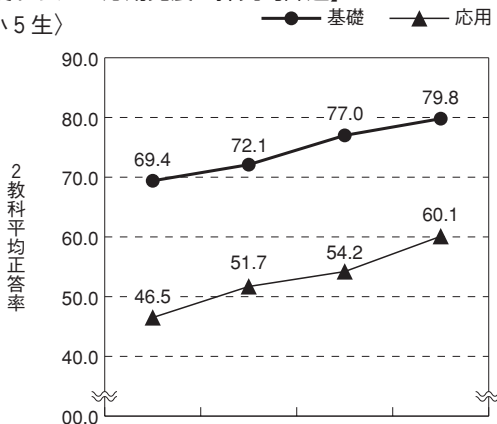
〈中2生〉



パターン	D	C	B	A
予習	×	×	○	○
復習	×	○	×	○
割合(%)	21.5	11.5	13.6	36.8

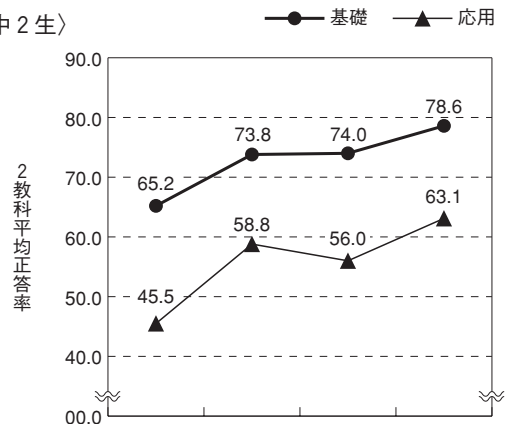
【反復ドリルと応用発展・探究的課題】

〈小5生〉



パターン	D	C	B	A
反復ドリル問題	×	×	○	○
応用発展・探究的課題	×	○	×	○
割合(%)	14.2	4.7	31.6	45.4

〈中2生〉



パターン	D	C	B	A
反復ドリル問題	×	×	○	○
応用発展・探究的課題	×	○	×	○
割合(%)	31.6	6.7	34.4	26.0

注) 図表2-3-3に示した該当する宿題について「(とても+まあ)熱心に取り組んでいる」と回答した子どもを「○」、「(あまり熱心に+まったく)取り組んでいない」と回答した子どもを「×」として、パターン分けしている。「宿題に出ない」と回答した子どもは除いている。

図表2-3-6は、宿題の取り組みパターンと教科学力との関係を、予習・復習の取り組みパターンと、反復ドリルと応用発展的・探究的課題の取り組みパターンについて見たものである。いず

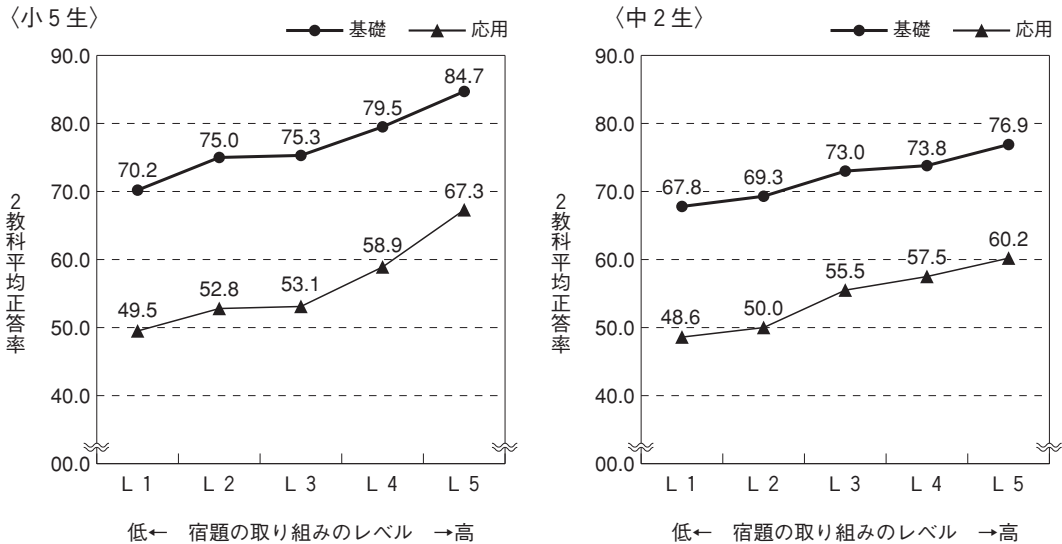
れについても、教科学力は、2種類の課題のどちらにも取り組んでいる子どもが最も高く、どちらにも取り組んでいない子どもが最も低い。また、基礎よりも応用の差が大きくなっている。

### 3) いろいろな課題に総合的に取り組んでいる子どもほど教科学力が高い

図表2-3-7は、宿題への取り組み状況(図表2-3-3)を子ども各人の回答合計に基づいてスコア化し、さらにL1からL5の5段階のレベルに分け、このレベルと教科学力との関係を示したものである。このレベルが高いほど、多くの種類の宿題に積極的に取り組んでいることを表しており、このレベルは宿題の取り組みの総合性の

指標という意味を有している。小5生・中2生ともに、宿題の取り組みのレベルが高いほど、教科学力、とくに応用的学力が高い傾向が現われている。このことは、ドリルのような課題だけでなく、課題を総合的に準備し、適切に子どもに取り組ませることの大切さを示唆しており、先に述べた課題の総合性が大切とする仮説を実証している。

図表2-3-7 宿題の取り組みレベルと教科学力との関係



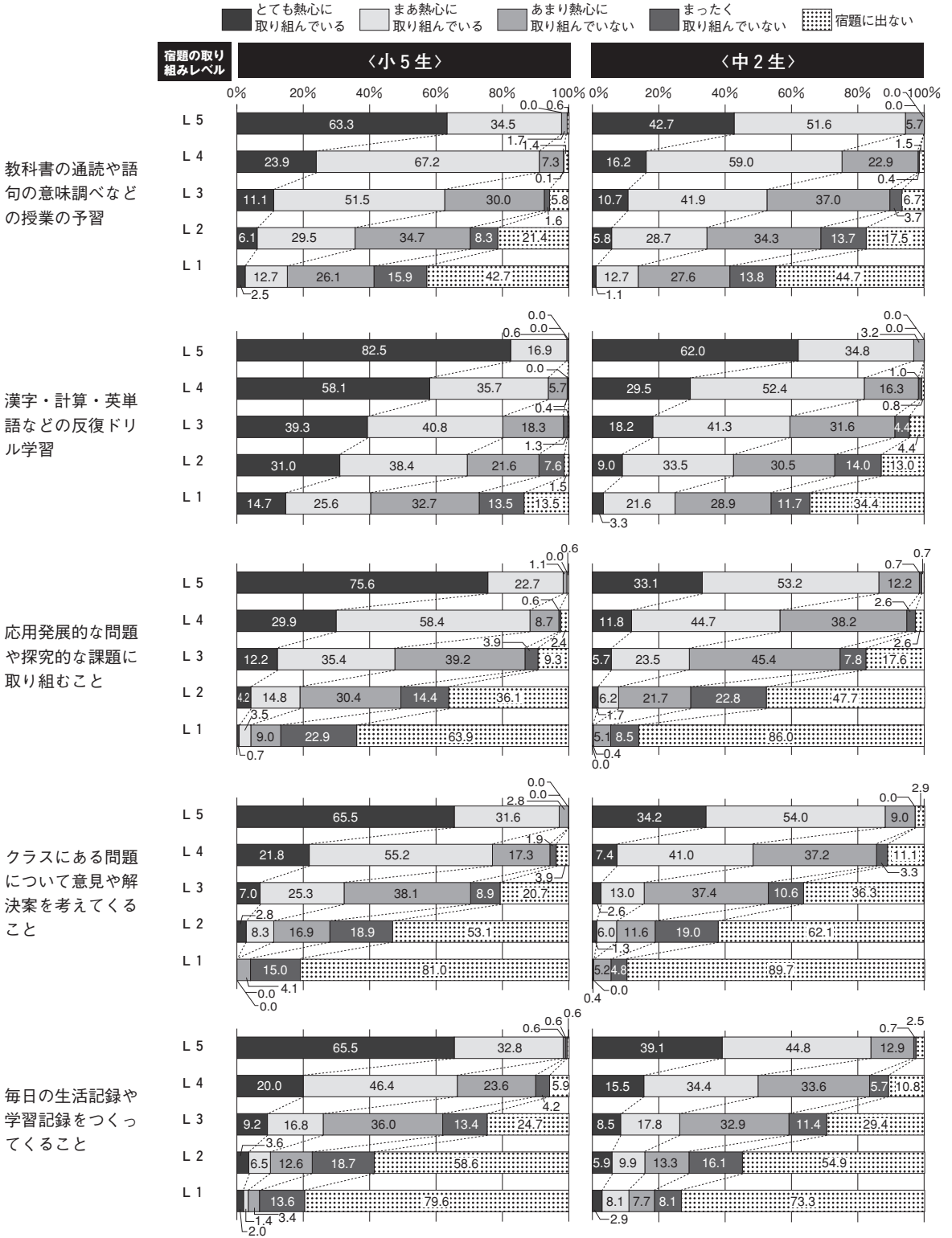
注) 宿題の取り組みレベルは、宿題各項目の回答スコアの合計に基づき、上位から7%、24%、38%、24%、7%の割合に準ずるかたちでL5からL1の5つの段階を設定している。

次ページの図表2-3-8は、宿題の取り組みレベル別に、各宿題への取り組み度合いにどの程度の違いがあるかを、いくつかの宿題の例について見たものである。高いレベルのグループに属する子どもは、教科の課題のみならず、学びの基礎

力や社会的実践力育成に関わる課題にも総合的に取り組んでいる割合が高い。小5生に比べて、中2生は、全般に取り組み度合いが低く、図表2-3-7の中2生についてのグラフの勾配が小さい一つの原因となっている。



図表 2-3-8 宿題の取り組みレベル別に見た宿題の取り組み度合い



注) 宿題の取り組みレベルと宿題の取り組み状況との関係をいくつかの個別の宿題について見たもの。L1～L5に属する子どもは、どの宿題についても同じである。宿題の取り組みレベルの高い子ども(L5)は、教科的な課題のみならず、社会的実践力育成に関わる課題や学びの基礎力育成に関わる課題についても取り組んでいる割合が高いことが確認できる。

#### 4 宿題への取り組みレベルと「学びの基礎力」「社会的実践力」との関係

これまで、宿題の取り組みと教科学力との関係を見てきたが、次に、宿題の取り組みと学びの基礎力ならびに社会的実践力との関係を見てみよう。なお、ここでは、先の宿題の取り組みレベル

と、学びの基礎力、ならびに社会的実践力のカテゴリ別の偏差値との関係を見ることにとどめる。

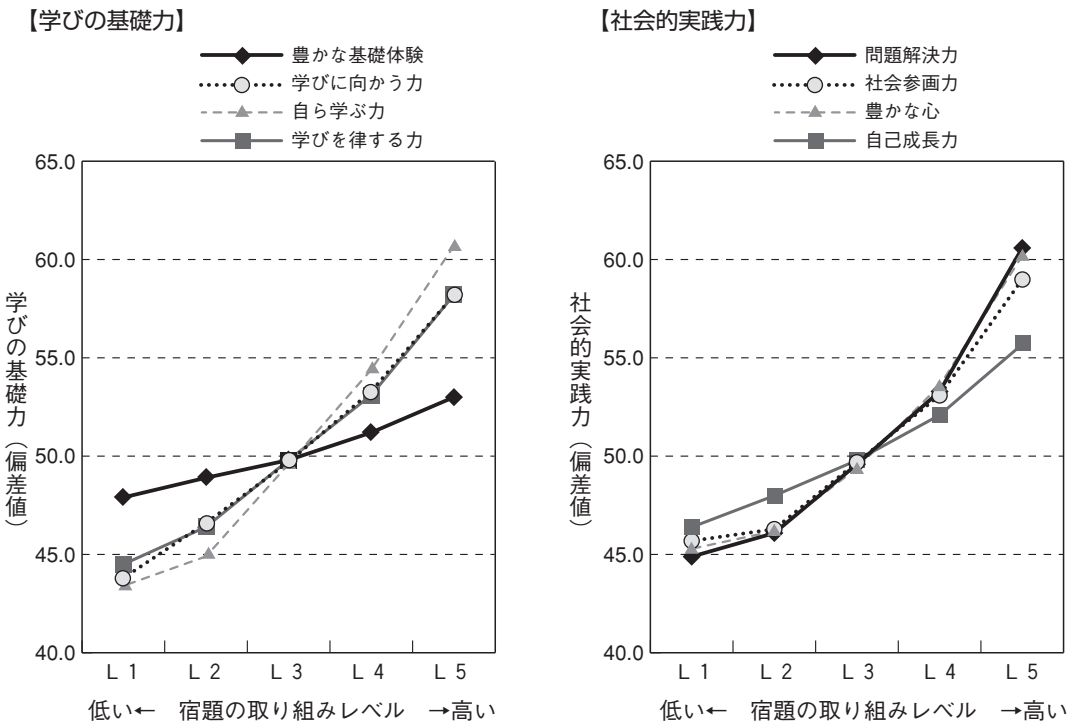
##### ●宿題の取り組みレベルと「学びの基礎力」「社会的実践力」とは正の相関関係にある

図表2-3-9の左側は、小5生について、宿題の取り組みレベルと学びの基礎力の「豊かな基礎体験」「学びに向かう力」「自ら学ぶ力」「学びを律する力」の4つのカテゴリ別スコアの偏差値との関係を表している。「豊かな基礎体験」との相関はやや弱い、宿題の取り組みレベルと他の3つのカテゴリとの間には顕著な正の相関関係が現われている。最も相関が強いのは、「自ら学ぶ力」となっている。このカテゴリには、「学習計画力」「学習スキル」「学習定着の方略」「自宅学習習慣」をサブカテゴリとして含んでおり、宿題の取り組みレベルとの相関が強いのは

当然とも言える。図表の右側は、同様に、宿題の取り組みレベルと社会的実践力の「問題解決力」「社会参画力」「豊かな心」「自己成長力」の4つのカテゴリとの相関を見たものである。いずれについても顕著な正の相関関係が認められる。中2生についても同様である(図表略)。

周知の通り、相関関係は必ずしも因果関係を表しているとは限らない。おそらく、学びの基礎力や社会的実践力が宿題への取り組みを促したり下支えするとともに、宿題への取り組みが逆に学びの基礎力や社会的実践力の形成を促すという相互作用の関係にあると考えられる。

図表2-3-9 宿題の取り組みレベルと「学びの基礎力」「社会的実践力」との関係(小5生)



注)宿題の取り組みレベルと「学びの基礎力」「社会的実践力」の各カテゴリ別偏差値との関係を見たもの。各カテゴリに含まれる具体的な項目については、Benesse教育研究開発センターのWebサイト参照。なお、今回の調査においては「学びの基礎力」の「豊かな基礎体験」に含まれる項目は、他者との支え合いやメディア体験を中心としたもので、自然体験等を含まない限定的なものとなっている。

## 5 子どもが向かいやすく効果を感じる宿題の在り方とは

図表 2-3-10 は、学校の宿題に対する子ども（小5生）の感想・評価（各設問について「とてもあてはまる」～「まったくあてはまらない」と、各宿題への子どもの取り組み度合い（「とても熱心に取り組む」～「まったく取り組まない」と）との関係

図表 2-3-10 宿題への子どもの感想・評価と宿題の取り組み度合いとの関係  
(小5生)

宿題の種類 (宿題への取り組み度合い)		理解・定着・習熟的課題				
		授業の 予習	授業の 復習	反復ドリル 学習	まとめの ドリルや 問題集を 解くこと	授業中の やり残した 課題の 仕上げ
のめあてややり方の明確さ	次の授業のためにやっておくことがあらかじめわかっていて、計画的に取り組める宿題が多い。	0.36	0.36	0.30	0.32	0.37
	宿題のめあてや評価の考え方が示されているので取り組みやすい。	0.35	0.36	0.29	0.32	0.35
	先生は、家で学習の仕方や使う参考書などの相談に乗ってくれる。	0.24	0.21	0.17	0.21	0.23
やりたくなる課題	もっとやってみたいと思うような宿題がよく出る。	0.32	0.31	0.27	0.27	0.30
	授業で学んだことを日常生活に生かすような宿題が出るので学習する意義がわかる。	0.04	0.03	0.01	0.02	0.04
	自分の弱点や理解度に合った宿題が出る。	0.21	0.25	0.18	0.19	0.21
	先生が自分で工夫した宿題が出る。	0.21	0.20	0.16	0.18	0.20
と評価の指導	自分のしたいことができなくなるほど多くの宿題が出る。	0.35	0.35	0.29	0.32	0.33
	先生は、提出した宿題をきちんとチェックしてくれる。	0.22	0.22	0.21	0.21	0.25
	先生は、宿題をしてきたら評価してくれるのでやる気になる。	0.22	0.22	0.17	0.19	0.20
	先生は、宿題で出した内容を生かして授業をしている。	0.32	0.30	0.23	0.26	0.31

(中2生)

宿題の種類 (宿題への取り組み度合い)		理解・定着・習熟的課題				
		授業の 予習	授業の 復習	反復ドリル 学習	まとめの ドリルや 問題集を 解くこと	授業中の やり残した 課題の 仕上げ
のめあてややり方の明確さ	次の授業のためにやっておくことがあらかじめわかっていて、計画的に取り組める宿題が多い。	0.30	0.31	0.28	0.32	0.35
	宿題のめあてや評価の考え方が示されているので取り組みやすい。	0.24	0.29	0.26	0.29	0.29
	先生は、家で学習の仕方や使う参考書などの相談に乗ってくれる。	0.15	0.20	0.16	0.17	0.17
やりたくなる課題	もっとやってみたいと思うような宿題がよく出る。	0.25	0.30	0.24	0.26	0.27
	授業で学んだことを日常生活に生かすような宿題が出るので学習する意義がわかる。	0.25	0.32	0.27	0.27	0.29
	自分の弱点や理解度に合った宿題が出る。	0.15	0.21	0.18	0.17	0.19
	先生が自分で工夫した宿題が出る。	0.17	0.19	0.18	0.19	0.21
と評価の指導	自分のしたいことができなくなるほど多くの宿題が出る。	0.06	0.08	0.06	0.03	0.04
	先生は、提出した宿題をきちんとチェックしてくれる。	0.22	0.23	0.26	0.26	0.28
	先生は、宿題をしてきたら評価してくれるのでやる気になる。	0.33	0.31	0.33	0.35	0.36
	先生は、宿題で出した内容を生かして授業をしている。	0.28	0.28	0.25	0.26	0.30

注) 相関係数は-1から+1の間の値をとる。この値が+1に近いほど、正の相関が強いこと(表側の項目について、例えば、「とてもあてはまる」と回答している子どもが、表頭の宿題について「とても熱心に取り組んでいる」と回答している割合が高いこと)を意味する。網掛けは相関係数が0.30以上のものを示す。上記の相関係数については、無相関の検定を行った結果。

り組んでいる」～「まったく取り組んでいない」)との相関関係を相関係数で示したものである。相関係数は、2つの変数間の直線的な共変関係の度

合いを示したもので-1から+1の間の値をとる。相関係数が比較的大きい0.30以上のものに網掛けをしている(下の図表の注記を参照)。

		調べ学習的課題				応用・発展的課題				社会的実践力育成課題	学びの基礎力育成課題	
テストで間違えたところの見直し	文学作品の暗唱	授業テーマの調べ学習	ノートの充実・整理	インターネットの活用	応用発展的・探究的な課題	課題研究	新聞記事などの要約	総合的な学習のまとめやレポート	クラスにある問題について解決案	毎日の生活記録や学習記録	読書	
0.37	0.28	0.30	0.33	0.27	0.38	0.32	0.35	0.36	0.33	0.32	0.17	
0.36	0.28	0.33	0.36	0.25	0.38	0.33	0.32	0.34	0.33	0.32	0.14	
0.27	0.12	0.19	0.28	0.15	0.25	0.19	0.22	0.21	0.23	0.19	0.10	
0.32	0.22	0.27	0.30	0.22	0.31	0.26	0.30	0.29	0.32	0.24	0.17	
0.08	0.01	0.01	0.06	0.04	0.05	0.04	0.03	0.03	0.04	0.08	0.17	
0.24	0.18	0.19	0.26	0.15	0.23	0.20	0.22	0.22	0.20	0.25	0.08	
0.21	0.20	0.20	0.23	0.17	0.25	0.21	0.21	0.24	0.27	0.20	0.14	
0.38	0.26	0.32	0.34	0.27	0.38	0.32	0.34	0.34	0.34	0.28	0.05	
0.20	0.19	0.22	0.20	0.19	0.21	0.20	0.20	0.22	0.21	0.15	0.16	
0.22	0.15	0.18	0.22	0.13	0.22	0.19	0.21	0.19	0.20	0.15	0.18	
0.28	0.24	0.26	0.30	0.23	0.31	0.26	0.24	0.26	0.29	0.21	0.18	

		調べ学習的課題				応用・発展的課題				社会的実践力育成課題	学びの基礎力育成課題	
テストで間違えたところの見直し	文学作品の暗唱	授業テーマの調べ学習	ノートの充実・整理	インターネットの活用	応用発展的・探究的な課題	課題研究	新聞記事などの要約	総合的な学習のまとめやレポート	クラスにある問題について解決案	毎日の生活記録や学習記録	読書	
0.30	0.26	0.29	0.31	0.23	0.28	0.30	0.27	0.29	0.28	0.27	0.17	
0.25	0.21	0.28	0.27	0.20	0.26	0.27	0.22	0.25	0.27	0.26	0.14	
0.17	0.15	0.18	0.19	0.15	0.21	0.18	0.17	0.16	0.23	0.18	0.10	
0.26	0.20	0.27	0.27	0.18	0.29	0.26	0.21	0.24	0.29	0.23	0.17	
0.32	0.23	0.29	0.31	0.19	0.32	0.25	0.25	0.25	0.28	0.22	0.17	
0.18	0.12	0.17	0.22	0.13	0.18	0.16	0.13	0.15	0.18	0.15	0.08	
0.20	0.16	0.19	0.21	0.15	0.19	0.22	0.17	0.19	0.22	0.18	0.14	
0.07	0.07	0.06	0.09	0.07	0.08	0.04	0.13	0.05	0.08	0.05	0.05	
0.21	0.20	0.23	0.17	0.21	0.16	0.21	0.20	0.24	0.23	0.20	0.16	
0.29	0.25	0.32	0.29	0.26	0.27	0.30	0.24	0.31	0.29	0.24	0.18	
0.26	0.23	0.26	0.28	0.21	0.26	0.27	0.19	0.26	0.28	0.24	0.18	

小5生では「授業で学んだことを日常生活に活かすような宿題が出る」、中2生では、「自分のしたいことができなくなるほど多くの宿題が出る」の行を除き、すべて統計的に有意であることが確かめられている。宿題の項目表記は簡略形を用いている。

この図表から、子どもが宿題に取り組む度合い全般ととくに関係の深い宿題の在り方として、次

のことが読み取れる（設問文を簡略な表現で示す）。

◆子どもが宿題に取り組む度合い全般ととくに関係の深い宿題の在り方

- 小5生・中2生に共通すること
  - ①課題が事前に計画的に提示されていること
- 小5生にとくにあてはまること
  - ②宿題のめあてや評価規準が明示されていること
  - ③宿題の量がある程度多いこと
  - ④もっとやってみたいとやる気を喚起するような宿題であること
  - ⑤宿題が授業に活かされること（宿題の成果を踏まえた授業がなされること）
- 中2生にとくにあてはまること
  - ⑥学習する意義がわかるような宿題であること
  - ⑦宿題をしてきたら先生が評価してくれること

上に挙げた項目以外についても、相関係数は大きくないものの、全般に正の相関を示しており、宿題の設計・運用にあたって考慮されることが必要であろう。

上に挙げた項目の中で、とくに小5生・中2生に共通してあてはまる「①課題の事前の計画的な提示」は、子どもが宿題に能動的・主体的に向かうための前提的な条件であり、子どもに宿題に取り組ませる工夫の基本的なものであろう。場当たり的な出題ではなく、やるべきことがあらかじめ分かっているような課題の出し方をできるかぎり心がけることの大切さは、子どもに限らず大人が何かの課題に向かう場合も同じであり多言を要さない。

また、中2生の段階では、小5生の段階よりも、学習する意義の理解や教師の評価（他者の評価）が学習へ向かわせることと関係が深いことに留意したい。

なお、小5生にとくにあてはまることの一つに「③宿題の量がある程度多いこと」があるが、もとの質問項目は、「自分のしたいことができなくなるほど多くの宿題が出る」となっている。しかし、だからといって子どもの自由な時間がなくなるほど宿題を出せばよいと考えることは早計であ

る。後でデータを見るように、子どもが宿題だけでなく宿題以外の自主的な学習にも合わせて取り組むことが学力向上にとって大切だからである。

また、「②宿題のめあてや評価規準が明示されていること」「④もっとやってみたいとやる気を喚起するような宿題であること」、ならびに「⑤宿題が授業に活かされること」も小5生にとくにあてはまる項目となっている。「②」は、宿題の要求内容・水準（＝ゴール）を子どもにはっきり示すことの大切さ、「④」は、宿題の内容面での工夫の大切さを示している。そして、「⑤」は、その宿題の内容と授業とを連動させ、子どもが宿題をすることの役立ちを実感できるような場面を授業の中で作ることが、子どもを宿題に向かわせる上で重要であることを意味していると考えられる。

次に、各宿題への取り組み度合いと宿題の効果認識との関係を見よう。図表2-3-11は、両者の相関関係を図表2-3-10と同様に、相関係数で見たものである。相関係数は、図表2-3-10で見たものより全般に大きく、この図表では、0.40以上のものに濃い網掛けを、0.35以上0.40未満には薄い網掛けをしている。この図表から、全般に、宿題の取り組み度合いと成果認識と

の関係は顕著であるが、宿題の効果認識全般ととくに相関関係が強い宿題として、次のことが読み取れる。

◆宿題の効果認識全般ととくに相関関係が強い宿題

- 小5生・中2生に共通すること
  - ①授業の復習をすること
  - ②テストで間違えたところを見直し、間違えない工夫を考へてくること
  - ③まとめのドリルや問題集や教科書の問題を解くこと
- 小5生にとくにあてはまること
  - ④応用発展的・課題探究的課題に取り組むこと
  - ⑤授業の予習をすること
  - ⑥授業中にやり残した課題をやり遂げること
  - ⑦授業ノートを整理・充実させること
  - ⑧総合的な学習のまとめやレポートを作成すること
- 中2生にとくにあてはまること
  - ⑨漢字・計算・英単語などの反復ドリル学習をすること

ここに挙げた項目以外についても、全般に比較的強い正の相関を示しており注意が必要である。

図表で「学習習慣」「計画的学習」「授業内容の定着」などの「宿題の効果認識」の内容ごとに数値を縦に見ていくことで、各効果認識ととくに関わりの深い宿題が浮かび上がる。小5生について、例えば、「授業内容の定着」について見ると、「復習」や「予習」とともに、「まとめのドリル」や「反復ドリル」および「授業中のやり残した課題をやり遂げてくること」「テストで間違えたところの見直し」など「理解・定着・習熟」型の課題と確かに相関の強い項目となっている。他方、「応用発展的・探究的課題」や「総合的な学習のまとめやレポート」との高い相関も見られることは興味深い。中2生についても薄い網掛けの項目も含める

と同様な傾向がある。

「思考力・発表力」については、小5生・中2生ともに、「クラスにある問題の解決案」「応用発展的・探究的課題」「授業テーマについての調べ学習」が0.35以上の相関係数となっている。とくに「クラスにある問題の解決案(を考へてくること)」は、小5生・中2生ともに相関係数が0.41とかなり高い値となっていることに注目したい。教科的な課題のみならず、身のまわり(や地域・社会)に存在する課題に対して問題解決的な取り組みを促すことは、子どもの思考力や発表力の育成に好影響を及ぼしていると考えられる。

以上は、この図表の読み取りと含意の一端である。読者各自でじっくりとご覧になっていただきたい。

図表 2-3-11 各宿題の取り組み度合いと宿題の効果認識との関係

(小5生)

宿題の効果認識		学習習慣形成面			情意的側面				学力定着的側面		
		学習習慣	計画的学習	学習方略	学ぶ楽しさ	自己効力感	興味・関心	達成感	授業内容の定着	漢字・計算力	思考力・発表力
宿題の種類 (各宿題への取り組み度合い)		家庭での学習の習慣が身につくようになった。	家庭で計画的に学習が進められるようになった。	自分で何をどう学習すればよいか分かるようになった。	授業を受けるのが楽しみのようになった。	学習に対する自信がついた。	自分の興味や関心が広がるようになった。	やり遂げたという充実感や達成感が味わえた。	授業で習ったことがしっくりと身につくようになった。	漢字や計算などの力がつくようになった。	自分でものを考えたり、発表したりする力がつくようになった。
理解・定着・習熟的課題	授業の予習	0.37	0.41	0.43	0.40	0.38	0.39	0.40	0.39	0.36	0.35
	授業の復習	0.43	0.45	0.44	0.40	0.44	0.40	0.40	0.45	0.40	0.33
	反復ドリル学習	0.38	0.38	0.37	0.35	0.37	0.36	0.36	0.38	0.43	0.31
	まとめのドリルや問題集を解くこと	0.37	0.39	0.41	0.39	0.42	0.39	0.38	0.41	0.41	0.35
	授業中のやり残した課題の仕上げ	0.38	0.40	0.41	0.36	0.42	0.43	0.40	0.44	0.38	0.36
	テストで間違えたところの見直し	0.41	0.42	0.41	0.39	0.44	0.42	0.42	0.45	0.40	0.37
	文学作品の暗唱	0.32	0.31	0.33	0.33	0.34	0.32	0.34	0.31	0.31	0.31
調べ学習的課題	授業テーマについての調べ学習	0.34	0.37	0.39	0.35	0.37	0.42	0.40	0.38	0.35	0.36
	授業ノートの充実・整理	0.37	0.42	0.42	0.36	0.40	0.41	0.39	0.39	0.33	0.36
	インターネットの活用	0.27	0.25	0.27	0.26	0.28	0.30	0.31	0.29	0.25	0.28
応用・発展的課題	応用発展的・探究的な課題	0.40	0.44	0.45	0.41	0.46	0.46	0.42	0.44	0.38	0.40
	新聞記事などの要約	0.38	0.38	0.37	0.36	0.37	0.40	0.37	0.37	0.32	0.35
	課題研究	0.29	0.33	0.34	0.33	0.36	0.39	0.36	0.34	0.30	0.31
	総合的な学習のまとめやレポート	0.36	0.37	0.40	0.35	0.39	0.41	0.38	0.41	0.33	0.37
社会的実践力育成課題	クラスにある問題についての解決案	0.37	0.37	0.38	0.36	0.38	0.42	0.37	0.37	0.31	0.41
学びの基礎力育成課題	毎日の生活記録や学習記録	0.34	0.35	0.34	0.33	0.33	0.34	0.36	0.33	0.29	0.31
	読書	0.22	0.21	0.20	0.19	0.21	0.25	0.25	0.22	0.21	0.20

次に、宿題への子ども感想・評価と宿題の効果認識との関係を見てみよう。これは、先の図表 2-3-10 と図表 2-3-11 の 2 つを合成的に見ることに相当する。図表 2-3-12 はこの相

関関係を前の 2 つの図表と同様に相関係数で見たものである。この図表から、宿題の効果認識と関係の深い宿題の在り方として、次のことが読み取れる。

◆宿題の効果認識と関係の深い宿題の在り方

- 小5生・中2生に共通すること
  - ①宿題のめあてや評価規準が明示されていること
  - ②もっとやってみたいとやる気を喚起するような宿題であること
- 小5生にとくにあてはまること
  - ③課題が事前に計画的に提示されていること
  - ④宿題の量がある程度多いこと
- 中2生にとくにあてはまること
  - ⑤学習する意義がわかるような宿題であること
  - ⑥宿題をしてきたら先生が評価してくれること

図表 2-3-11 各宿題の取り組み度合いと宿題の効果認識との関係 (つづき)

(中2生)

宿題の効果認識		学習習慣形成面			情意的側面				学力定着的側面		
		学習習慣	計画的学習	学習方略	学ぶ楽しさ	自己効力感	興味・関心	達成感	授業内容の定着	漢字力・計算力	思考力・発表力
宿題の種類 (各宿題への取り組み度合い)		家庭での学習の習慣が身につくようになった。	家庭で計画的に学習が進められるようになった。	自分で何をどう学習すればよいか分かるようになった。	授業を受けるのが楽しみのようになった。	学習に対する自信がついた。	自分の興味や関心が広がるようになった。	やり遂げたという充実感や達成感が味わえた。	授業で習ったことがしっかりと身につくようになった。	漢字や計算などの力がつくようになった。	自分でものを考えたり、発表したりする力がつくようになった。
理解・定着・習熟的課題	授業の予習	0.34	0.32	0.31	0.32	0.32	0.32	0.36	0.33	0.32	0.28
	授業の復習	0.49	0.46	0.40	0.36	0.39	0.35	0.36	0.42	0.37	0.33
	反復ドリル学習	0.42	0.40	0.37	0.34	0.37	0.33	0.37	0.42	0.40	0.30
	まとめのドリルや問題集を解くこと	0.43	0.39	0.35	0.34	0.39	0.34	0.38	0.44	0.41	0.32
	授業中のやり残した課題の仕上げ	0.39	0.37	0.34	0.33	0.34	0.35	0.39	0.44	0.37	0.32
	テストで間違えたところの見直し	0.41	0.40	0.39	0.35	0.40	0.34	0.39	0.42	0.36	0.34
	文学作品の暗唱	0.25	0.26	0.25	0.26	0.25	0.28	0.29	0.27	0.28	0.27
調べ学習的課題	授業テーマについての調べ学習	0.33	0.33	0.33	0.32	0.33	0.34	0.36	0.36	0.31	0.36
	授業ノートの充実・整理	0.36	0.38	0.34	0.33	0.33	0.35	0.34	0.33	0.30	0.32
	インターネットの活用	0.25	0.23	0.26	0.21	0.24	0.31	0.31	0.27	0.30	0.25
応用・発展的課題	応用発展的・探究的な課題	0.33	0.35	0.34	0.34	0.40	0.35	0.33	0.36	0.34	0.36
	新聞記事などの要約	0.32	0.31	0.29	0.28	0.30	0.30	0.32	0.30	0.28	0.30
	課題研究	0.33	0.33	0.33	0.32	0.34	0.36	0.35	0.33	0.33	0.34
	総合的な学習のまとめやレポート	0.35	0.33	0.35	0.31	0.33	0.34	0.37	0.34	0.34	0.34
社会的実践力育成課題	クラスにある問題についての解決案	0.33	0.34	0.35	0.34	0.34	0.37	0.34	0.31	0.32	0.41
学びの基礎力育成課題	毎日の生活記録や学習記録	0.37	0.37	0.31	0.28	0.30	0.28	0.32	0.32	0.30	0.28
	読書	0.22	0.21	0.20	0.19	0.21	0.25	0.25	0.22	0.21	0.20

注) 相関係数が0.35以上0.40未満のものに薄い網掛け、0.40以上のものに濃い網掛けをしている。表側の項目を横に見ていくことで、どのような宿題が効果認識と関係が深いかわかる。また、表頭の宿題の効果認識の項目ごとに縦に見ていくことにより、該当の効果認識と関わりの深い宿題がわかる。

薄い網掛けの項目までを含めると、「宿題で出した内容が授業で活かされること」も、小5生・中2生ともにあてはまる項目となる。これらの項目は、該当する学年に若干の変化はあるものの、先に図表 2-3-10 で子どもが宿題に取り組む度合い全般ととくに関係の深い宿題の在り方としてピックアップした項目と一致している。宿題の効果は、宿題に取り組んで初めて生まれるものであることを考えると、子どもに宿題に向かわせるように作用する要因が、宿題の効果認識とも関係が深いものとなっているのは自然な結果と言える。

この図表においても、図表 2-3-11 と同様

に、「宿題の効果認識」の内容ごとに数値を縦に見ていくことで、各効果認識と関わりの深い宿題の在り方が浮かび上がる。

例えば、「学習に対する自信がついた」という自己効力感獲得の効果認識については、小5生では、最も相関が高いのは「自分のしたいことができなくなるほど多くの宿題が出る」という宿題の量に関する項目であり、次いで、「宿題のめあてや評価規準の明示」「もっとやってみたくなるような課題」「課題の事前の計画的な提示」となっている。他方、中2生では、宿題の量に関する項目との相関はほとんどなく、「学習する意義がわかる課題」であること(小5生では相関なし)、な



らびに「もっとやってみたくなるような宿題」となっている。小5生では、ある程度課題の量をこなすことが学習に対する自信につながりやすい

が、中2生では、量をこなすことよりも「学習の意義」がわかり、「先生が評価してくれる」ことのほうが自信につながりやすいことを示している

図表 2-3-12 宿題への子どもの感想・評価と宿題の効果認識との関係

(小5生)

宿題の効果認識 宿題への感想・評価		学習習慣形成面			情意的側面				学力定着的側面		
		学習習慣	計画的学習	学習方略	学ぶ楽しさ	自己効力感	興味・関心	達成感	授業内容の定着	漢字力・計算力	思考力・発表力
		家庭での学習の習慣が身につくようになった。	家庭で計画的に学習が進められるようになった。	自分で何をどう学習すればよいか分かるようになった。	授業を受けるのが楽しみのようになった。	学習に対する自信がついた。	自分の興味や関心が広がるようになった。	やり遂げたという充実感や達成感が味わえた。	授業で習ったことがしっかりと身につくようになった。	漢字や計算などの力がつくようになった。	自分でものを考えたり、発表したりする力がつくようになった。
の め あ て や り 方 の 明 確 さ	次の授業のためにやっておくことがあらかじめわかっている、計画的に取り組める宿題が多い。	0.41	0.41	0.38	0.35	0.40	0.39	0.40	0.43	0.33	0.33
	宿題のめあてや評価の考え方が示されているので取り組みやすい。	0.41	0.41	0.44	0.42	0.41	0.43	0.43	0.43	0.36	0.34
	先生は、家での学習の仕方や使う参考書などの相談に乗ってくれる。	0.29	0.33	0.33	0.32	0.29	0.29	0.29	0.26	0.21	0.24
や り た く な る 課 題	もっとやってみたく思うような宿題がよく出る。	0.36	0.37	0.39	0.48	0.43	0.43	0.39	0.38	0.33	0.33
	授業で学んだことを日常生活に生かすような宿題が出るので学習する意義がわかる。	0.09	0.10	0.10	0.04	0.07	0.07	0.06	0.05	0.03	0.06
	自分の弱点や理解度に合った宿題が出る。	0.29	0.31	0.33	0.32	0.29	0.31	0.33	0.29	0.27	0.23
	先生が自分で工夫した宿題が出る。	0.22	0.25	0.25	0.27	0.27	0.26	0.26	0.25	0.21	0.24
	自分のしたいことができなくなるほど多くの宿題が出る。	0.43	0.45	0.46	0.44	0.45	0.46	0.44	0.43	0.37	0.35
と 評 価 宿 題 へ の 指 導	先生は、提出した宿題をきちんとチェックしてくれる。	0.23	0.22	0.23	0.23	0.25	0.21	0.24	0.27	0.26	0.19
	先生は、宿題をしてきたら評価してくれるのでやる気になる。	0.26	0.29	0.29	0.34	0.33	0.29	0.30	0.27	0.21	0.25
	先生は、宿題で出した内容を生かして授業をしている。	0.33	0.36	0.37	0.34	0.35	0.36	0.38	0.37	0.32	0.29

考えられる。

以上、宿題の在り方と宿題の効果認識との関係の一端を見たが、宿題の効果認識の各項目は、それ自体が相互に内在的な関係構造を有していると

考えられる。例えば、「自己効力感」(学習に対する自信)は、学習上の課題をやり遂げた「達成経験」を経ることが、その前提的な条件の一つであろう。

図表 2-3-12 宿題への子どもの感想・評価と宿題の効果認識との関係 (つづき)

(中2生)

宿題の効果認識  宿題への感想・評価		学習習慣形成面			情意的側面				学力定着的側面		
		学習習慣	計画的学習	学習方略	学ぶ楽しさ	自己効力感	興味・関心	達成感	授業内容の定着	漢字や計算力	思考力・発表力
		家庭での学習の習慣が身につくようになった。	家庭で計画的に学習が進められるようになった。	自分で何をどう学習すればよいか分かるようになった。	授業を受けるのが楽しくなった。	学習に対する自信がついた。	自分の興味や関心が広がるようになった。	やり遂げたという充実感や達成感が味わえた。	授業で習ったことがしっかりと身につくようになった。	漢字や計算などの力がつくようになった。	自分でものを考えたり、発表したりする力がつくようになった。
の め あ て や り 方	次の授業のためにやっておくことがあらかじめわかっている、計画的に取り組める宿題が多い。	0.35	0.36	0.35	0.32	0.33	0.34	0.34	0.39	0.31	0.32
	宿題のめあてや評価の考え方が示されているので取り組みやすい。	0.38	0.40	0.41	0.43	0.40	0.40	0.40	0.39	0.33	0.36
	先生は、家での学習の仕方や使う参考書などの相談に乗ってくれる。	0.30	0.32	0.32	0.37	0.32	0.30	0.30	0.29	0.20	0.27
や り た く な る 課 題	もっとやってみたく思うような宿題がよく出る。	0.37	0.40	0.39	0.50	0.42	0.43	0.39	0.37	0.29	0.38
	授業で学んだことを日常生活に生かすような宿題が出るので学習する意義がわかる。	0.40	0.43	0.44	0.49	0.43	0.45	0.39	0.40	0.31	0.41
	自分の弱点や理解度に合った宿題が出る。	0.32	0.32	0.33	0.36	0.32	0.32	0.31	0.30	0.24	0.28
	先生が自分で工夫した宿題が出る。	0.25	0.28	0.31	0.33	0.28	0.32	0.31	0.30	0.25	0.27
	自分のしたいことができなくなるほど多くの宿題が出る。	0.10	0.11	0.10	0.05	0.05	0.09	0.10	0.07	0.07	0.11
と 評 価 と 評 価 へ の 指 導	先生は、提出した宿題をきちんとチェックしてくれる。	0.24	0.22	0.23	0.23	0.22	0.23	0.26	0.28	0.26	0.21
	先生は、宿題をしてきたら評価してくれるのでやる気になる。	0.38	0.36	0.37	0.42	0.40	0.40	0.44	0.39	0.36	0.35
	先生は、宿題で出した内容を生かして授業をしている。	0.33	0.33	0.34	0.38	0.32	0.36	0.36	0.37	0.29	0.32

注) 相関係数が0.35以上0.40未満のものに薄い網掛け、0.40以上のものに濃い網掛けをしている。表側の項目を横に見ていくことで、どのような宿題の在り方が効果認識と関係が深いかがわかる。また、表頭の宿題の効果認識の項目ごとに縦に見ていくことにより、該当の効果認識と関わりが深い宿題の在り方がわかる。

# 2

## 子どもの「家庭学習力」と総合学力との関係

### 1 子どもの「家庭学習力」の状況

次に、今回の調査で新しく導入した「家庭学習力」について見ていくことにする。第2章1節で述べている通り、「家庭学習力」は、「学力向上のための基本調査2003」で提唱した「総合学力」の構成要素である「学びの基礎力」や「社会的実践力」に内包されるものであるが、学習全般ではなく主に家庭学習の局面において発揮される力として操作的に定義したものである。

図表2-3-13(1)(2)は、「家庭学習力」として設定した33項目に対する子どもの回答状況を示している。設問のカテゴリーは、第2章1節図表2-1-2の概念モデルに準じている。ここでは、回答結果の紹介だけにとどめて回答状況の詳細を確認することは読者に委ね、続いて、「家庭学習力」と教科学力との関係を見ていく。

図表2-3-13 子どもの「家庭学習力」の状況(1)

設問のカテゴリー	小5生 (%)					設問番号	設問	中2生 (%)					
	100	80	60	40	20			0	0	20	40	60	80
基礎的体験	1.5						問11-1	家でマンガ以外に科学読み物や小説などいろいろな種類の本を読むようにしている。	0.3				
	12.0	22.2	31.9	32.4			問11-2	毎日だいたい決まった時刻に寝起きするようにしている。	25.2	30.6	28.2	15.7	0.5
	1.6						問11-3	学校や地域の図書館で本を借りて読んでいる。	37.6	38.1	16.4	7.4	1.1
	2.1						問11-4	家で学習していてわからないときは教えてくれる人がいる。	9.5	13.0	30.0	46.4	0.8
	16.6	23.9	25.5	31.8			問11-5	家で学習するときは、苦手教科もしっかりと学習している。	32.5	32.8	21.0	12.9	0.5
2.3	3.9					問11-6	家で学習することで学校の授業がよくわかるようになったと感じる。	8.8	22.5	34.5	32.3	0.5	
自律心	1.8						問11-7	やり遂げる目標を決めて学習している。	1.6				
	8.8	18.2	36.5	37.2			問11-8	自分で決めた家の学習をやり遂げてうれしかったことがある。	5.4	18.2	36.5	37.2	0.5
	1.6						問11-9	自分で取り組む家での学習は楽しいと思う。	1.8				
	8.5	26.1	35.4	28.3			問11-10	自分で決めて学習している教材がある。	8.5	26.1	35.4	28.3	0.6
	1.2						問11-11	学校の先生が出した宿題をきちんとやり遂げている。	1.2				
自己学習力	9.4	18.0	28.4	43.0			問11-12	定期テストや単元テストの準備に計画的に取り組んでいる。	9.4	18.0	28.4	43.0	1.5
	0.9						問11-13	次の日の授業がわかりやすくなるように予習している。	0.9				
	10.1	24.4	40.0	24.6			問11-14	授業で学んだことを何度も反復して復習している。	10.1	24.4	40.0	24.6	0.6
	1.3						問11-15	毎日の家庭学習の時間割を決めて取り組んでいる。	1.3				
	17.7	24.6	27.0	29.3			問11-16	テレビやラジオをつけずに集中して学習している。	17.7	24.6	27.0	29.3	0.4
	1.4	1.7					問11-17	次の日の授業に必要な教科書やノートなどは前日の夜に準備している。	1.4	1.7			
	7.6	22.6	66.7				問11-18	学習に必要な図書や資料は、いつも自分で整理整頓している。	7.6	22.6	66.7		0.3
自己制御力	1.3								37.8	42.4	15.5	0.4	
	7.7	24.1	39.7	27.3					24.5	40.5	27.5	7.1	
	1.7								7.0	23.7	44.2	24.6	
	18.8	32.8	32.4	14.3					7.7	27.8	45.0	18.9	
	2.0								7.5	20.4	40.4	31.1	
11.9	30.0	34.4	21.6					24.3	26.6	28.8	19.9		
1.8								5.9	9.6	18.3	64.8		
15.9	29.2	30.1	23.1					1.7				0.5	
1.7								5.9	19.1	32.2	41.1	0.6	
10.4	21.6	28.5	37.8					32.1	32.8	25.1	9.4		

図表2-3-13 子どもの「家庭学習力」の状況(2)

とてもあてはまる
  まああてはまる
  あまりあてはまらない
  まったくあてはまらない
  無効回答

設問の カテゴリー	小5生 (%)					設問番号	設 問	中2生 (%)					
	100	80	60	40	20			0	0	20	40	60	80
自己マネジメント力	1.7						毎日どんな学習をしたかノートなどに記録をつけるようにしている。	0.5					
		31.3	29.5	23.1	14.3	11-19		7.5	14.6	34.1	43.3		
	2.5							11-20					0.8
		16.8	32.1	32.1	16.5	11.8			26.1	36.0	25.3		
2.1						11-21					0.8		
	15.7	33.8	32.2	16.3	11.5		30.5	36.2	21.1				
生涯学習力	1.6						ふだんからテレビのニュースや新聞記事で、社会の動きを知るようにしている。	0.6					
		12.4	22.4	29.6	34.0	11-22		25.8	37.1	26.9	9.7		
	2.9							11-23					0.5
			47.9	15.6	12.0	21.6			32.0	10.7	4	50.1	
	2.2							11-24					0.8
	37.9	16.0	13.8	30.2	17.6	13.4	14.3		53.9				
3.2						11-25					0.8		
	33.4	32.6	18.9	11.9	50.1		12.5	29.0	52.8				
豊かな学び	1.9						学習で疲れたときなどうまくリラックスすることができる。	0.6					
		8.1	18.3	30.7	41.0	11-26		32.9	30.8	24.1	11.6		
	1.8							11-27					0.6
		12.7	24.9	26.0	34.5	7.3			25.5	45.3	21.3		
	2.2							11-28					0.9
	10.6	30.1	32.6	24.5	10.0	29.6	42.6		16.9				
2.1						11-29					0.6		
	8.6	22.0	31.8	35.5	22.2		34.6	30.0	12.6				
自己成長力	2.1						家ででの学習で、自分にとって今何が足りないかがわかっていてる。	0.9					
		9.1	25.9	33.2	29.7	11-30		33.7	35.7	21.6	8.2		
	1.5							11-31					1.0
		17.6	26.6	25.4	28.9	18.7			24.6	33.4	22.2		
	1.8							11-32					0.7
	7.1	21.1	31.7	38.3	29.4	38.8	23.6		7.6				
1.2						11-33					3.7	0.4	
	50.1	13.1	27.9	52.8	54.2		31.8	9.9					

注)「家庭での生活や学習について、次のようなことは、あなたにどれくらいあてはまりますか?」の設問に対する回答状況を示す。

## 2 「家庭学習力」と総合学力との関係

### 1) 家庭学習力は基礎よりも応用的学力で大きな差異を生じている

図表2-3-14は、家庭学習力の33項目のうち、教科学力との相関が顕著な項目を抽出したものである。各設問に対して「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答している子どもを肯定群、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答している子どもを否定群とし、それぞれの群に属する子どもの2教科平均スコアと両群の差を基礎・応用別に示している。どの項目においても、家庭学習力の項目の肯定群が否定群よりも正答率が高く、とくに応用的問題の差が顕著であることがわかる。小5生・中2生ともに、基礎・応用ともに最も両群の差が大きいのは「学校の先生が出した宿題をきちんとやり遂げてい

る」という項目であり、次いで、応用の差で見ると、小5生では、「自分が行きたい学校に進むために家での学習は大切だと思う」「家でしっかり勉強することは自分の可能性を広げてくれる」という家庭での学習の将来の進学・進路との関わり認識に関する項目、中2生では、「英語や漢字など検定試験を受けたことがある」「家で学習するときは苦手教科もしっかりと学習している」「自分が行きたい学校に進むために家での学習は大切だと思う」という項目となっている。これらは、教科学力ととくに関わりの深い項目と考えられる。

図表 2-3-14 「家庭学習力」各項目と教科学力との関係

家庭学習力の設問内容		群	小5生				中2生			
			2教科平均 正答率		差		2教科平均 正答率		差	
			基礎	応用	基礎	応用	基礎	応用	基礎	応用
基礎的体験	家でマンガ以外に科学読み物や小説などいろいろな種類の本を読むようにしている。	肯定	79.0	58.8	6.2	9.6	73.5	56.3	2.8	3.9
		否定	72.7	49.2			70.7	52.4		
	毎日だいたい決まった時刻に寝起きするようにしている。	肯定	78.3	57.5	6.6	8.6	73.5	56.2	4.9	6.4
		否定	71.8	48.9			68.6	49.7		
	家で学習していてわからないときは教えてくれる人がいる。	肯定	77.9	56.7	8.3	9.2	74.0	56.8	5.1	6.3
		否定	69.6	47.5			69.0	50.5		
自律心	家で学習するときは、苦手教科もしっかりと学習している。	肯定	79.1	58.4	7.3	9.3	76.2	59.8	10.0	13.4
		否定	71.7	49.1			66.2	46.4		
	家で学習することで学校の授業がよくわかるようになったと感じる。	肯定	78.4	57.5	6.9	8.7	75.6	58.7	7.5	9.4
		否定	71.5	48.8			68.1	49.4		
	やり遂げる目標を決めて学習している。	肯定	78.7	58.1	5.6	7.7	75.7	58.6	6.7	7.9
		否定	73.1	50.4			69.0	50.7		
自己学習力	自分で取り組む家での学習は楽しいと思う。	肯定	77.7	57.0	3.1	4.7	74.9	58.2	4.1	5.6
		否定	74.7	52.2			70.8	52.5		
	学校の先生が出した宿題をきちんとやり遂げている。	肯定	78.0	56.9	13.9	16.3	74.9	57.8	13.2	16.4
		否定	64.1	40.6			61.7	41.4		
	定期テストや単元テストの準備に計画的に取り組んでいる。	肯定	78.4	57.5	5.2	6.7	75.3	58.4	8.6	10.8
		否定	73.2	50.8			66.7	47.6		
授業で学んだことを何度も反復して復習している。	肯定	78.7	57.9	4.4	5.8	76.4	59.7	6.3	7.8	
	否定	74.3	52.1			70.1	51.8			
自己制御力	テレビやラジオをつけないで集中して学習している。	肯定	78.7	57.9	5.8	7.9	75.3	58.2	6.2	7.4
	否定	72.8	50.1	69.2			50.8			
	次の日の授業に必要な教科書やノートなどは前日の夜に準備している。	肯定	78.1	56.9	8.3	9.4	73.5	55.8	4.0	3.9
否定	69.8	47.5	69.5	51.9						
自己学習力	自分の学習の仕方を振り返って改善したことがある。	肯定	78.3	57.5	3.2	4.3	76.1	59.3	6.5	8.1
	否定	75.2	53.2	69.6			51.2			
生涯学習力	ふだんからテレビのニュースや新聞記事で、社会の動きを知るようにしている。	肯定	79.0	58.5	6.1	8.6	73.7	56.0	3.8	3.7
		否定	72.9	49.9			69.9	52.3		
	英語や漢字など検定試験を受けたことがある。	肯定	79.9	59.9	4.7	6.8	79.5	63.5	12.4	15.4
否定	75.2	53.1	67.1	48.1						
豊かな学び	学習で疲れたときなどうまくリラックスすることができる。	肯定	77.9	57.0	4.2	5.8	74.0	56.5	4.6	5.4
		否定	73.7	51.2			69.3	51.2		
	難しいことでも自分から進んで学習していることがある。	肯定	79.1	58.8	5.7	8.1	77.8	61.8	9.0	11.8
		否定	73.4	50.7			68.8	50.0		
自分の得意分野をさらに伸ばすために家で自分なりに学んでいることがある。	肯定	79.0	58.6	7.1	9.9	74.8	57.6	5.7	6.9	
	否定	71.9	48.6			69.1	50.8			
自己成長力	家での学習で、自分にとって今何が足りないかがわかっている。	肯定	78.3	57.5	4.1	5.6	73.7	56.2	4.5	5.0
		否定	74.2	51.9			69.2	51.2		
	家でしっかり学習することは自分の可能性を広げてくれると思う。	肯定	78.9	58.5	7.5	10.7	74.8	57.6	7.7	9.3
		否定	71.4	47.8			67.1	48.3		
	自分が行きたい学校に進むために家での学習は大切だと思う。	肯定	78.4	57.7	9.0	12.7	73.8	56.5	11.0	13.3
		否定	69.3	45.0			62.9	43.1		

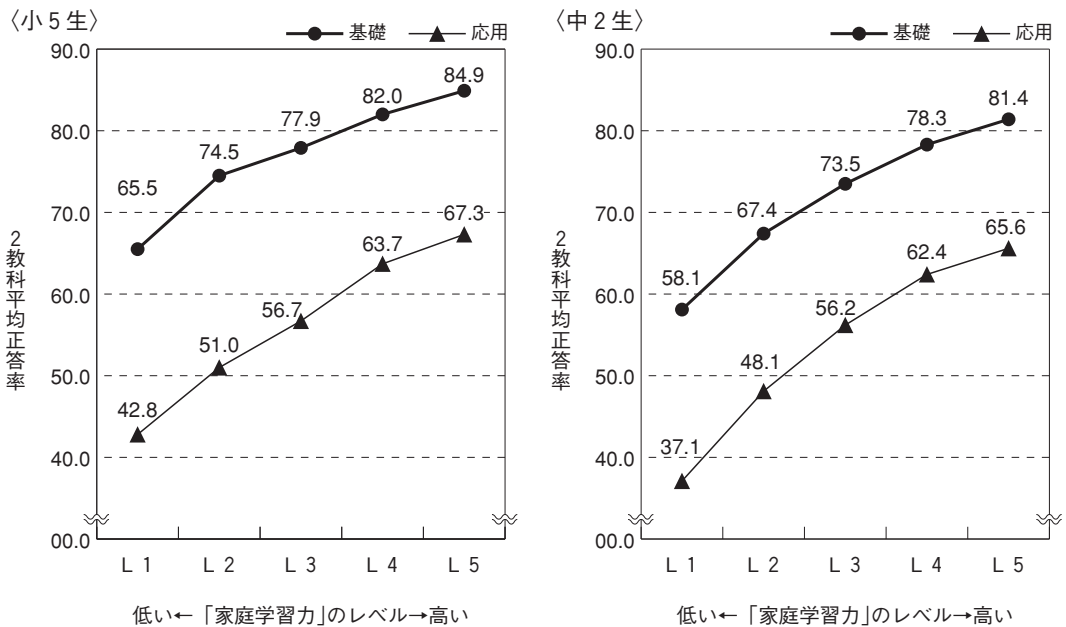
注)家庭学習力の各項目について「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答している子どもを肯定群、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答している子どもを否定群として2群に分け、両群の2教科(国語・算数/数学)の平均正答率とその差を基礎・応用別に見たもの。

## 2) 家庭学習力のレベルが高い子どもほど教科学力が高い

図表2-3-15は、家庭学習力に関する回答状況(図表2-3-13)を子ども各人の回答合計に基づいてスコア化し、さらにL1からL5の5段階のレベルに分け、このレベルと教科学力との関係を示したものである。このレベルの高い子どもほど、「とてもあてはまる」と回答している家庭学習力の項目の割合が高い子どもでもある。図表から、家庭学習力のレベルと教科学力とは顕著な正の相関関係にあることがわかる。また、L1とL5の間の教科学力の差は、基礎と応用いずれに

ついても、図表2-3-13に表れている各項目の肯定群・否定群の両群の差の最大より大きく、家庭学習力の各項目の効果がある程度累積的に積み上がっていることが読み取れる。このことは、学力向上に寄与する家庭学習力の因子が複数存在していることを示しており、家庭学習力の育成は、多面的に図られる必要があることを示唆している(家庭学習力の項目に対する因子分析の結果は第3章1節で報告されている)。

図表2-3-15 「家庭学習力」のレベルと教科学力との関係



注)家庭学習力のレベルは、家庭学習力各項目の回答スコアの合計に基づき、上位から7%、24%、38%、24%、7%の割合に準ずるかたちでL5からL1の5つの段階を設定している。

家庭学習力と他の総合学力の要素——学びの基礎力と社会的実践力との関係については、小5生・中2生ともに、家庭学習力の項目と後者の項目とはすべて正の相関を示し、相関係数で0.3から0.5程度の比較的強い相関関係を示すものが多いという報告のみにとどめる。このことは、家庭学習力が学びの基礎力や社会的実践力に内包されるものであり、もともと関連のあるものとして定

義されたものであることから予想と違わぬ結果と言える。付言するなら、家庭学習力と学びの基礎力ならびに社会的実践力との関係が、相関係数が高いといってもたかだか0.5程度で1(=完全相関)とはまだ隔たりがあるということは、両者は強い関係はあるが、やはり区別されるべきものであることを物語っている。

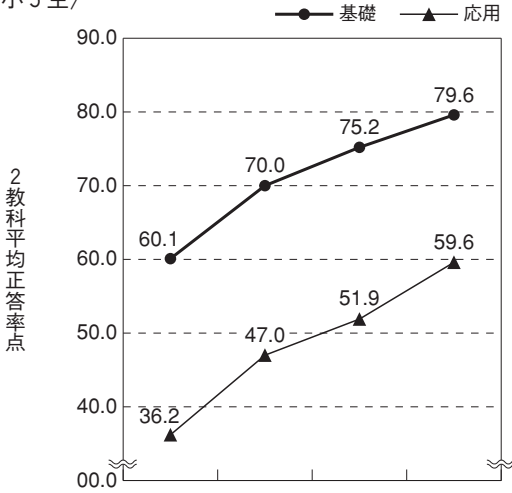
### 3 宿題と自主的学習の取り組みパターンと教科学力との関係

本節の最後に、宿題と自主的学習の取り組みパターンと授業理解度（意識）ならびに教科学力（学力調査結果）との関係を見ておく。

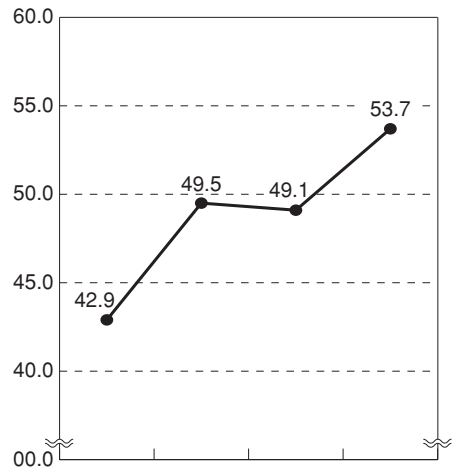
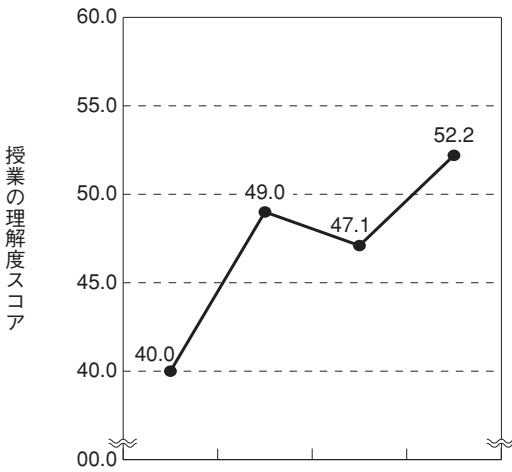
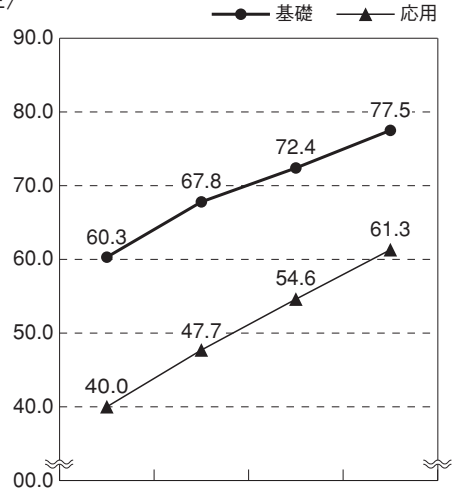
#### ●宿題と自主的な学習の両方に取り組んでいる子どもの授業理解度、教科学力はともに高い

図表 2-3-16 「宿題」と「自主的学習」の取り組みパターンと教科学力との関係

〈小5生〉



〈中2生〉



パターン	D	C	B	A
宿題	×	×	○	○
自主的学習	×	○	×	○
割合 (%)	5.6	3.9	27.8	62.7

パターン	D	C	B	A
宿題	×	×	○	○
自主的学習	×	○	×	○
割合 (%)	15.4	3.7	40.8	40.0

注1) 宿題：「学校の先生が出した宿題をきちんとやり遂げている(問11-11)」の肯定的回答者(とも・まあ)を「○」、否定的回答者(あまり・まったく)を「×」としている。

自主的学習：家庭学習力の中の次の3つの設問の回答スコア平均の基準値(2.50)以上を○、基準値未満を×としている。

・「学校で学んだことについて詳しく知るために自分で進んで学習していることがある(問11-27)」(※)

・「難しいことでも自分から進んで学習していることがある(問11-28)」

・「自分の得意分野をさらに伸ばすために自分なりに家で学んでいることがある(問11-29)」

(※) 小5生では「学校以外の勉強で好きなことを自分で調べたり作ったりしていることがある(問11-27)」

注2) 自主的学習の指標として用いた上の3つの項目は、家庭学習力の項目に対して行った因子分析で抽出された「自主的学習」の因子と一致している(第3章1節参照)。

注3) 授業理解度総合スコアは、国語・算数/数学の2教科について、「4. よく理解している」「3. まあ理解している」「2. あまり理解していない」「1. まったく理解していない」の回答合計を偏差値換算している。

図表2-3-16は、この関係を示すものである。宿題と自主的学習の項目は、家庭学習力の項目からとっている(図表の注記参照)。宿題、自主的な学習いずれにも取り組めていない子ども(パターンD)はもちろんのこと、宿題か自主的学習のいずれか一方の学習にとどまっている子ども(パターンBまたはC)よりも、いずれにも取り組んでいる子ども(パターンA)の授業理解度、教科学力がともに最も高いことを表している。授業を大切に宿題にきちんと取り組むとともに、自主的な学習にもしっかりと取り組むことの重要性が確認できる。

この図表から、パターンAに属する子どもは、小5生で6割強、中2生で4割となっている。ただし、このパターン分けは、各項目の肯定的回答者(「とてもあてはまる」「まああてはまる」の回答者)を「○」、否定的回答者(「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の回答者)を「×」と2分したものに基づいており、それゆえ、同じ

パターンの中においても子どもの状況は一様ではなくある程度のグラデーションが存在していることに注意してほしい。

また、宿題＝受動的学習、自主的学習＝能動的・主体的学習と機械的に捉えることは適切ではないことにも留意したい。能動的で主体的な学習姿勢が確立している子どもにとっては、宿題をすることも、それだけでなく授業を受けることそのものも能動的・主体的な学習であり得る。宿題・授業の子どもにとっての意味は、子どもの主体的な学習姿勢の確立の度合いに応じて変わってくると考えられる。図表から、宿題さえしない、あるいは宿題しかしない子どもが、小5生では3割強、中2生では6割程度存在している。受動的であれまず学習に向かわせること、そして受動的な学習から、いかにして能動的・主体的な学習へと子どもを誘っていくのかということが、多くの学校で課題となっているのではないだろうか。

## おわりに

本文中で「家庭と学校とは子どもの生活・学習システムとして一体である」という考え方を述べた。子どもの家庭学習の在り方を見直し充実を図ることは、このシステムにある種の変更を加えることを意味する。しかし、システムの変更は、原理的にシステム構成要素である学校自身にも何らかの影響、すなわちその変更をともなわざるを得ない。家庭学習の在り方を考えることは学校の授業・教育活動の在り方を考えることと表裏一体である。本節の表題は「子どもの家庭学習と総合学力との関係」としているが、家庭学習の重要性のみを一面的に強調する意図のものではないことを念のためお断りしておきたい。

以上、子ども調査の結果を見てきたが、詳細にふれなかったり、紹介をも省いたりした項目も少なくない。本文中でも記したように、今回の調査項目全体の基礎集計については、Benesse教育研究開発センターのWebサイトをご覧いただきたい。